

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
[http://www.
ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)



切り絵『亥』

比企善彦作

大御心と祈り

わがくには神のすゑなり神まつる

昔の手振り忘るなよゆめ

この御歌は明治天皇の御製です。皇后さまは、今上陛下御在位二十五年にあたって「前の御代からお受けしたものを精一杯次の時代まで運ぶ者でありたい」と今上陛下のお気持ちを述べられました。御製とこのお言葉から、歴代天皇に受け継がれた伝統祭祀、そして「国やすかれ民やすかれ」と祈るこころを感じます。今上陛下は象徴天皇として常に国民に寄り添われ、祈りを捧げてこられました。しかし、一昨年ご高齢によりお気持ちどおりの務めが果たせない旨のお言葉が登せられ、平成三十一年四月三十日にご譲位されることとなりました。そして翌五月一日には皇太子様が天皇にご即位されることとなります。即位後には様々な儀式が執り行われ、秋には天皇一代に一度の「大嘗祭」が国内の東西二田から収穫された新穀が供えられて斎行されます。新帝の即位の後宮中で行われる様々な儀式や祭儀は、今も昔も変わらない日本人の心に受け継がれてきた精神の継承の儀式であり祭儀なのです。

奉祝「御代替」

明年、平成三十一年四月三十日を以ちまして、天皇陛下が皇太子様に天皇の御位をお譲りなられることになりました。これは文化十四（一八七）年、光格天皇が仁孝天皇に譲位されて以来、約二百年ぶりのこととなります。天皇陛下が一昨年八月に象徴としてのお務めについて述べられた「おことば」が発せられ、平成三十一年四月三十日にご譲位遊ばされることとなり、同日内閣総理大臣をはじめ国民を代表する方々に会われ、ご譲位の旨を広く国民に宣言される「退位礼正殿の儀」が宮中において執り行われます。翌五月一日には天皇の御しるしである「剣と勾玉」そして「天皇印と国印」を受け継ぐ「剣璽等継承の儀」が執り行われ、さらに十月二十二日には天皇は「高御座」に昇られて国民を代表する多くの方に即位を宣言する「即位礼正殿

の儀」が執り行われます。そして十一月十四日・十五日には皇祖神（天照大神とも云われます）の御霊を受け五穀豊穡を祈る「大嘗祭」が斎行されます。例年十一月二十三日に新嘗祭が宮中を始め全国の神社で斎行されていますが、即位後初の新嘗祭は「大嘗祭」と云い、十一月十四日から十五日の二日間斎行されます。大嘗祭では「大嘗宮」を新たに設け、供える新穀も国内に選定した二カ所の神聖な水田（悠紀田と主基田）から収穫した新穀が供えられ大嘗宮内悠紀殿そして主基殿にて天皇は神々と共に召し上がられます。御代替りにおいて行われる儀式はいずれも皇室・国家を挙げた重儀で、世界に類例のない誇るべき日本の文化ともいえます。私たち国民は平成の御代をかえりみ、陛下の御事績に想いを致すとともに、新帝陛下の御即位を挙げてお祝い申し上げたいと思います。

震災報告

六月に発生しました大阪北部地震、また九月に襲来しました台風二十一号は、私たちの暮らす地域をはじめ各地に甚大な被害をもたらしました。茨木神社も地震によって多くの石造物が倒壊、また二階建て儀式殿の屋根瓦がずれる等の被害を蒙りました。ただ、幸い社殿には大きな損傷はなく、地震発生直後から平素のとおり祭祀を執り行うことができています。台風二十一号では修復中の儀式殿の素屋根がめくれ上がり、また境内に樹木の葉や折れ枝が無数に散乱しましたが、これも幸い倒木はなく、社殿等に被害が及ぶことはありませんでした。しかしながら儀式殿の修復には瓦職人の不足もあり、予想以上に時間がかかっており、みなさまにはご不便・ご迷惑をおかけし、誠に申し訳なく存じます。

また、この氏子区域の中に

も、地震、その後の台風によって、住み慣れたご自宅が深刻な被害を受け、引越しや建て直しを余儀なくされるという例を多数聞き及んでおります。一刻も早い復旧、復興と、皆様方の暮らしの安寧をご祈念申し上げます。

劇場映画「葬式の名人」

去る七月二十八日、映画撮影に先立って、当社で福岡茨木市長をはじめ映画監督・脚本家またメインキャストの高良健吾さんらスタッフ参列のもと、撮影の無事成功と映画のヒット祈願祭が斎行されました。この映画は茨木市が今年市制七十年を迎えるにあたって記念事業のひとつと企画されたものです。その内容は「葬式の名人」という題名で、茨木市の名誉市民であり日本人初のノーベル文学賞を受賞された文豪川端康成を取り上げ、川端の青年期を育んだ茨木をモチーフにした青春群像コメディです。撮影は当社境

内をはじめ、茨木市内の各所で行われました。映画「葬式の名人」の名人」は本年公開の予定です。

オール茨木ロケ
映画「葬式の名人」
制作プロジェクト

文豪・川端康成の名作群を原案に



「いばらぎてづくり市」開催

彼岸も過ぎ、厳しかった夏の暑さも落ちついた九月二十四日に茨木商工会議所と商業団体連合会主催の「いばらぎてづくり市」が境内で開催されました。茨木市内の多数の商店や手作りグッズ制作者でつくる実行委員会が観光協会後援の下、多くのテントを並べ、コーヒーや地酒の他、手

芸品、袋物、ポーチ等が販売されていました。



また特設舞台も設けられて落語寄席が開かれるなど、境内は笑い声で賑わいました。



テント等が片付けられ、そして日も沈み昼の賑わいが、うそのように静まりかえった中、本殿前石畳の両側に、子ども達の将来の夢が書かれた小さな手作りの灯籠が並び、幻想的な雰囲気醸し出されていました。

黒井の清水大茶会

去る十月二十一日と二十二日の二日間、恒例の「黒井の清水大茶会」が開催されました。



当社境内の西北隅にある井戸「黒井の清水」から湧き出

る水（残念ながら今は出ません）は、その昔島下郡の三清水の一つと言われ、豊臣秀吉の茶の湯に供したと伝えられています。この逸話に因み、茨木市観光協会の主催のもと、毎年十月に献茶式並びに野点が催されています。

ご神前に茶を奉る献茶式は、茨木市長始め関係者参列のもと初日の午前九時に執り行われました。その後は、茨木市茶華道連盟のご奉仕により野点が行われ、終日多くの人々で賑わいました。





去る十一月二十九日、恒例

奉賛会バスツアー

他にも、琴奏者横山佳世子さんや茨木神社雅楽会の演奏地元名産の銘菓や地酒の販売ブースもあり、また茶券を購入された方は抽選会に参加できるなど、お茶以外の楽しみも用意されていました。今回は天候にも恵まれ、訪れた方々は良いひと時を過ごされたのではないでしょう。



の奉賛会バスツアーを実施いたしました。

今年は六十三名にご参加いただき、和歌山市に鎮座します日前神宮・國懸神宮に正式参拝いたしました。当宮は紀伊国一宮、旧社格は官幣大社で、境内に同一の規模、同一様式の官幣大社二社が並立する全国にも珍しい神宮です。その歴史は古く、創始は神武天皇二年（紀元前六五九）と伝えられ、古くより朝廷を始め、時の権力者より篤く崇敬されてきました。当宮の祭祀は代々「紀伊國国造家」の紀氏が継承し、今日で八十余代を数えます。紀氏は古代よりこの紀伊国を統治し、国造の制が廃止される明治時代まで国造家として栄えた名家です。正式参拝の後、昼食は和歌山市内にある近代和風建築と日本庭園で有名な六三園で戴きました。六三園は同県出身の事業家、松井家の旧別邸で二千坪を有する敷地には主屋をはじめとする十棟の建造物が



国の登録有形文化財に登録されている日本有数の庭園として知られています。紅葉が見事な庭園をみながら季節の料理をおいしく戴き、黒潮市場、続いて中野BC酒造で酒蔵の見学や試飲を楽しみ、帰路につきました。ご参加戴きました皆様には秋の深まりを感じながら有意義な楽しい一日をお過ごし頂けたご様子でした。

これからの行事予定

- ◆越年祭 十二月三十一日
- ◆歳旦祭 一月一日 午前十時
- ◆十日戎祭 一月九日～十一日
- ◆御火焚（とんど） 祈禱木奉焼祭 一月十五日
- ◆初午祭 二月二日
- ◆節分祭 鎮魂星祭 二月三日
- ◆紀元祭 二月十一日
- ◆人形奉焼祭 四月八日
- ◆春祭（祈年祭） 奉賛会厄除安全祈願祭 四月十八日
- ◆大祓 茅の輪くぐり神事 六月三十日